

(3) 化学 (医薬品を除く)

15 / 14 16 / 15

伸び率 10%以上 ● 伸び率 0 ~ 10%

: 天気図マーク: ●

伸び率 0 ~ 10%

伸び率 10%以下

1. 企業経営動向 (需要、生産・設備投資、企業収益、財務)

1. 企業経営動向 (需要、生産・設備投資、企業収益、財務)

(1) 需要

現状

化学工業 (除: 医薬品) の出荷は増加傾向にあり、16年1~3月期の出荷は前期比1.5%と3期連続の上昇となった。業種別にみると、プラスチック、合成ゴム、石油系芳香族、写真感光剤等が増加し、高圧ガス、有機薬品等が減少した。

内外需別にみると、国内向けはプラスチック、無機薬品・顔料・触媒、合成ゴム等の増加から同1.5%の上昇、輸出は石油系芳香族、合成ゴム、環式中間物・合成染料等の増加から同3.9%の上昇となった。

今後の見通し

汎用品の内需については、景気の回復が継続すると見込まれることから、引き続き拡大する見通し。外需については、アジア地区の需要にアジア域内外での石油化学プラントの増設が当分追いつかないため、引き続き堅調に推移すると見込まれる。IT関連部材については、ディスプレイパネル向け部材や次世代フォトレジストなどの分野において引き続き拡大が見込まれる。

(2) 生産・設備稼働

16年1~3月期の化学工業 (除: 医薬品) の生産は、前期比2.1%と2期連続の上昇となった。業種別にみると、化粧品、プラスチック、合成ゴム、無機薬品・顔料・触媒等が増加し、高圧ガス、環式中間物・合成染料等が減少した。

なお、平成15年度の化学工業 (除: 医薬品) の生産は、前年度比0.5%の上昇となった。

(3) 企業収益

15年度の収益状況

主要化学企業の決算概況は、原材料の高騰や、急激な円高といったマイナス要因はありつつも、特に期後半からの景況感の回復に伴う製品需要の増加、及び中国を中心としたアジア向け輸出の拡大により、概ね増収増益となった。依然として製品価格の下落は続いているものの、従来からの合理化・固定費削減努力に加え、販売数量の増加によって収益を確保した。

セグメント別では、石油化学部門は、市況の回復や輸出増加を背景に増収増益となったが、一部では原料コストの上昇に伴う売値への転嫁の遅れや、プラント操業停止の影響によって減益となった。一方、機能性化学品部門は、半導体市場の回復、デジタル家電、携帯電話などの需要拡大を背景に業績が拡大。特に、期後半からの立ち上がりが顕著となり、高付加価値製品の出荷数量増により、売上高の伸びを上回る利益を確保。液晶関連では内需及び韓国・台湾向けの輸出が伸びた。

今後の収益動向の見通し

石油化学製品の販売数量の増加や、半導体・液晶関連材料等のIT関連製品需要は引き続き好調に推移すると予想されるが、一方で一部の部門・業種では15年度後半からの原材料価格の高騰・高止まりの影響により、収益悪化が懸念されており、製品価格への転嫁の動向が注目される。

(4) 財務

有利子負債の水準は引き続き縮小傾向で推移する予定であるが、15年度で負債削減に一応の目処をつけ、16年度より拡大基調に転じる企業が増加する見込み。

2. 設備投資動向（14年度実績、15年度実績見込、16年度計画）

（1）これまでの設備投資の推移

14年度は米国経済の動向や我が国経済の長引く景気低迷の影響を受け、有利子負債の圧縮を優先し、設備投資計画を縮小する企業が多く見受けられたことにより減少した。一方、15年度は一部企業において生産能力増強等の積極的な投資が見られたが、有利子負債圧縮の方針から減価償却費の範囲内に収める企業が依然として多く、14年度よりも減少幅は改善したものの、前年度比 4.9%となった。

（2）平成16年度の設備投資計画（化学工業〔医薬品を除く〕99社ベース）

- ・16年度は、機能性材料関連を中心に生産能力増強等の積極的な投資が見られることから、5,937億円（前年比+33.9%）と大幅に増加する見込み。
- ・目的別投資を見ると、全区分において増加の見通しであるが、特に生産能力増強、環境保全、研究開発投資の伸びが大きい。投資額に占める生産能力増強投資のウェイトは、5.1ポイント増加（15年度37.0% 16年度42.1%）する一方で、更新・維持投資は2.4ポイント減少（15年度23.2% 16年度20.8%）する見込みであり、生産能力増強により重点を置いた計画となっている。
- ・分野別投資では、5分野全てで増加。特に、有機化学（15年度9.6% 16年度46.1%）その他化学分野（15年度 0.1% 16年度35.4%）は大幅な増加が見込まれる。また昨年は減少幅が大きかった石油化学分野においても増加（15年度 25.1% 16年度18.5%）の見込み。

3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

（1）長期資金運用動向

16年度における長期資金需要額は5,481億円（前年度+296億円）と増加。うち、設備投資所要資金額の長期資金需要額全体に占めるウェイトは83.0%と、前年度に比べて10.4ポイント増加の見込み。

（2）長期資金調達動向

長期資金調達の内訳は、自己資金（内部資金）が6,489億円（前年度+331億円）と増加。また、借入金については、特に民間金融機関からの借入金が92億円（前年度 211億円）と増加に転じる見込みであり、前年度までの有利子負債の圧縮傾向から変化が見られる。

設備投資の前年度比推移

